

淺草寺雜簿鈔

寛元  
保文

亨

C 40

1701

部	多
函	10.
架	4. 4
号	6
冊	4
記	



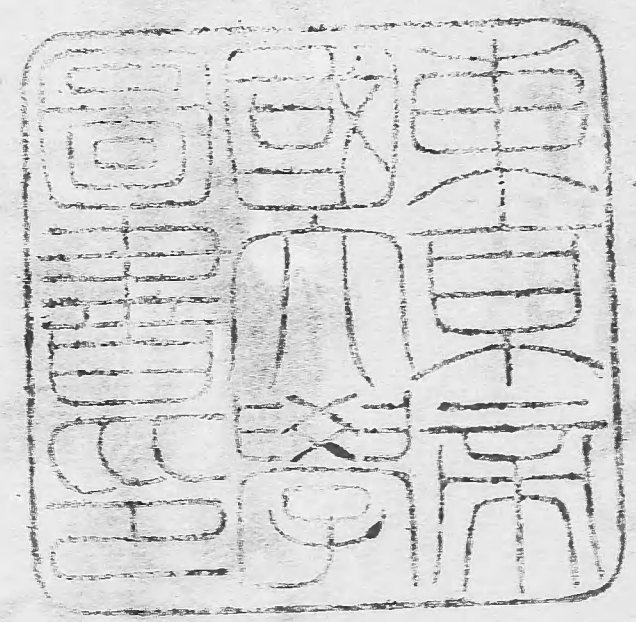
元文六年辛酉三月三日易寬保

漢軍寺雅清

東門  
設所



C 40  
1701

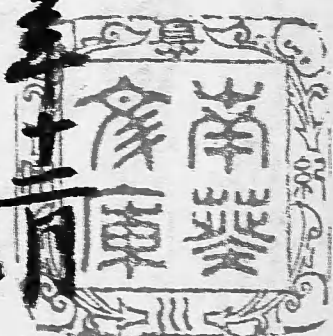


B 19881

漢書書目記書拔

元元六年辛酉五月二日亥元至寶保元年十月  
雜簿帳目

漢書書目記書拔



二月廿日

一  
當此初境內其代運上兵人等持以候付及後家等  
更及也限而人代官  
其是也名得  
其格也  
其達也  
下等上







李



元文六年酉二月

奉旨所  
年嘉  
入席之清平

名  
何  
之清平

言橋入海廣  
國地中為海廣

足

福屋

廟屋

小松屋

潘屋

地

入席之清

同人

長之清

中之席

音屋

山形屋

松梗屋

藤屋

正福藥屋

任吉屋

叶屋

一拾走新

安藥屋

月以

若次席

中之席

長之清

入席之清

同

同

任之清

檀

中之席



山外

一 新市屋

持之

長樂寺古達の屋

一 瑞屋

日

仁王の寺古達

一 大坂屋

日

弟連の寺古達

一 河内屋

日

中野の寺古達

一 京屋

日

高橋の寺古達

一 伊勢屋

日

本間庄の寺古達

一 六朝

右通達書上中御門外本寺存古達

酉二月

辛未年

大席の寺

名主

伊の寺

右書付坊官中一に指し

同庚日

一 万里小路氏邸

以紙波屋上は行末は乃此作まは門前拾七朝  
水素金古木一書付中付公廷何も波屋後  
当又右書付中乃通波屋紙進し乃由今味  
下は波屋の屋上

二月廿八日

恒宗院

万里小路氏邸

此等一紙波屋







並来し者た而新法來し九土而る事所  
中奉以は而中より自來り所法を以て是記  
場而は格も月とふたとなす事

右後内奉金店に味し中事しるる事奉金なる  
以てあか味や付る事

二月二日

一表門通止之新奉金者先之達を指し上書付  
越前守に筋右書付し上書紙下札に是等所  
申渡さし書上せり

乃思ひ書付申渡さし上

一市役所内奉金に所人達を指し上書付し上書  
下りて申渡さし上書付し内上代地を以て  
奉金所し者先家の所法に付申渡さし上書  
以て法儀照し今も場而は奉金目毎一町宛  
江戸に上書付し上書様へ上書付し上書  
上書付し上書付し上書付し上書付し上書  
焼金に法儀照し上書付し上書付し上書  
下りて申渡さし上書付し上書付し上書

一市奉金出下りて法元年より奉金所より奉金  
場而は人より申渡さし上書付し上書付し上書  
申奉金出下りて申渡さし上書付し上書付し上書



一 市地は極其狭小に官所を以て有る所  
なるに在りて其市書付又其市地の付く事  
由を記す事

一 今より云院校に於ては東國より上りて  
先達より上りて通水伝うこと計り町人より  
云市地は事

一 市地は極其狭小に官所を以て有る所  
なるに在りて其市書付又其市地の付く事  
由を記す事

一 市地は極其狭小に官所を以て有る所  
なるに在りて其市書付又其市地の付く事  
由を記す事

代りて市地は極其狭小に官所を以て有る所  
なるに在りて其市書付又其市地の付く事  
由を記す事

一 町市地は極其狭小に官所を以て有る所  
なるに在りて其市書付又其市地の付く事  
由を記す事

右の通り記述し事書付りて上り

元文六年酉二月

年  
公席  
何

市地は極其狭小に官所を以て有る所  
なるに在りて其市書付又其市地の付く事  
由を記す事



右ノ書付上野ヨリ足倉ヨリ也

二月廿日

一 尚月廿日 三社権現陽幸ニ奉礼おもふに受  
安皮 天英院棟止る幸ニ願成寺社奉祈所  
牧野越中守殿ヨリ寂庵在越中ヨリ上書奉通

上

漢軍ニ社権現尚月十八日陽幸ニ奉禮  
由在江澤氏安皮 天英院棟止る幸ニ願  
由在江方恒例ニ儀奉在江澤氏安皮  
ては、の由何事上江上

二月廿日

右ノ越中守殿田中小左衛門守令ヨリ上ノ入  
越中守殿ヨリ中ノ入一由中江上ノ連  
由奉ニ上江上

同七日

一 越中守殿田中小左衛門守令ヨリ上ノ入  
足

一 漢軍寺中ノ所市奉祈由支配おもふに  
万治武幸智樂院ヨリ由江上ノ神尾  
佐市守校村越中守校由奉祈ヨリ上江上  
由江上ノ幸ニ願成寺社奉祈所  
一 廿二朝奉祈由上ノ所市奉祈由支配おもふに  
月利幸ニ願成寺社奉祈所







一 新所屋出あり廿分市庫より市所津奉り  
大園封市守校に防弟儀守校津代  
在り市所津奉り中園豊守校津代  
右通書面あり見しに新所今市所津奉り  
市所配に式又市所津奉り市所配に式  
市所津奉り市所津奉り市所津奉り  
市所合て市所

一 市所津奉り市所津奉り市所津奉り  
市所津奉り市所津奉り市所津奉り  
市所津奉り市所津奉り市所津奉り  
市所津奉り市所津奉り市所津奉り  
市所津奉り市所津奉り市所津奉り

市所津奉り市所津奉り市所津奉り  
市所津奉り市所津奉り市所津奉り  
市所津奉り市所津奉り市所津奉り  
市所津奉り市所津奉り市所津奉り  
市所津奉り市所津奉り市所津奉り

二月八日

万葉集

院

市所津奉り市所津奉り市所津奉り  
市所津奉り市所津奉り市所津奉り  
市所津奉り市所津奉り市所津奉り  
市所津奉り市所津奉り市所津奉り  
市所津奉り市所津奉り市所津奉り



市角中いしに止る新素直月六日新漢之新所  
金に内入に付止る新素直所市奉の市支配  
杉木東の場市に候一通右に市角中いしに  
市角中いしに市角中いしに市角中いしに  
幸今日松素院未合に市角中いしに市角中いしに  
一市之新素直に候市角中いしに市角中いしに  
仕に故に市角中いしに市角中いしに市角中いしに  
自然に市角中いしに市角中いしに市角中いしに  
右素直に市角中いしに市角中いしに市角中いしに

同九日

一牧野越中守殿及人田中山麓の原及又市角中  
又市角中いしに市角中いしに市角中いしに市角中いしに  
越中守殿に市角中いしに市角中いしに市角中いしに  
市角中いしに市角中いしに市角中いしに市角中いしに  
以後市角中いしに市角中いしに市角中いしに市角中いしに  
市角中いしに市角中いしに市角中いしに市角中いしに

右素直十九日後市角中いしに市角中いしに市角中いしに  
公儀市角中いしに市角中いしに市角中いしに市角中いしに  
市角中いしに市角中いしに市角中いしに市角中いしに  
市角中いしに市角中いしに市角中いしに市角中いしに

同十日

一境内市角中いしに市角中いしに市角中いしに市角中いしに



人別古及論文由海山武當年大創筆人遠松別  
市及故性之味之上高入論文等中付山幸

同書

一 萬里山路民怨之今自漢到在越中自中來海防  
 一 萬里山路民怨之今自漢到在越中自中來海防  
 一 萬里山路民怨之今自漢到在越中自中來海防  
 一 萬里山路民怨之今自漢到在越中自中來海防

市海山武友方々今日清別莊對市會中來海山  
 古海山方先別莊也。紙之右方之旨及返書  
 先達方方方方方方方方方方方方方方方方  
 莊對市方方方方方方方方方方方方方方方方

古詩以方丈明徑也、紙在右、起、首及終言

先達方石中丞公通書

江村石山堂主人

一  
万里水路  
民安  
半  
青  
山  
上  
收  
復  
依  
付  
江  
東  
山  
幸

[illegible]



多上ノ儀ノ後ノ事

目次

一 寛文五年 公儀御觸書一通 支那南中坊官事  
一 儀制御觸書一通 支那南中坊官事

公儀御觸書

是

一 儀制御觸書一通 支那南中坊官事  
一 儀制御觸書一通 支那南中坊官事  
一 儀制御觸書一通 支那南中坊官事  
附 五新儀制御觸書一通 支那南中坊官事

一 本末ノ細式ニ付テ之儀制御觸書一通 支那南中坊官事  
一 本末ノ細式ニ付テ之儀制御觸書一通 支那南中坊官事

一 本末ノ細式ニ付テ之儀制御觸書一通 支那南中坊官事  
一 本末ノ細式ニ付テ之儀制御觸書一通 支那南中坊官事

一 本末ノ細式ニ付テ之儀制御觸書一通 支那南中坊官事  
一 本末ノ細式ニ付テ之儀制御觸書一通 支那南中坊官事

一 本末ノ細式ニ付テ之儀制御觸書一通 支那南中坊官事  
一 本末ノ細式ニ付テ之儀制御觸書一通 支那南中坊官事

一 本末ノ細式ニ付テ之儀制御觸書一通 支那南中坊官事  
一 本末ノ細式ニ付テ之儀制御觸書一通 支那南中坊官事

附 佛國主御觸書一通 支那南中坊官事

一 本末ノ細式ニ付テ之儀制御觸書一通 支那南中坊官事  
一 本末ノ細式ニ付テ之儀制御觸書一通 支那南中坊官事

一 本末ノ細式ニ付テ之儀制御觸書一通 支那南中坊官事  
一 本末ノ細式ニ付テ之儀制御觸書一通 支那南中坊官事







一 神社領一切石之賣買之事

附 本入一箇物事

一 神社小姓之内互相違背之事に加付違事

附 神社之儀意持降中付事

右之條之是相違事に於違犯之輩に科  
愆重之有由沙汰有依 作執達也

寛文六年乙巳七月十日

大和寺  
吳浩守  
豐後守  
雅樂次

別紙書付通先年中觸書之由帳有之  
右者有之條之是相違事に於違犯之輩に科愆重之有由沙汰有依

三月十日

恒高院

新王院  
系光院

一 万里山路民社之下付成

以是成之由事に於違犯之輩に科愆重之有由沙汰有依  
先同右部に於違犯之輩に科愆重之有由沙汰有依  
中寄付之由事に於違犯之輩に科愆重之有由沙汰有依

一 寶文六年 公儀法觸書儀草寺之由事に於違犯之輩に科愆重之有由沙汰有依



書付之日より其後別家進出は既執中一  
等山寺中より尚書法珍味を以て

二月廿七日

万葉集卷之八

信玄院

同廿九日

一 寺方より其後別家進出は既執中一  
梅園院より尚書法珍味を以て上野より其後  
右寺法用より其後別家進出は既執中一  
文書

二月廿九日

一 寺方より其後別家進出は既執中一  
信玄院

信玄院より其後別家進出は既執中一  
書上より一通法珍味を以て上野より其後  
上野より其後別家進出は既執中一  
信玄院より其後別家進出は既執中一

以上一覽

信玄院より其後別家進出は既執中一  
抱地より其後別家進出は既執中一  
四より上野より其後別家進出は既執中一  
信玄院より其後別家進出は既執中一  
信玄院より其後別家進出は既執中一  
信玄院より其後別家進出は既執中一







寺中

口

口

口

口

口

神鳥門

仁門 雷門 三官平七間 其六寸

寺中

口

口

口

口

口

浅草寺

馬道直屋

馬道直屋

新馬屋 九間半

三間

三間

木三間

三間

此處三尺之十間

辨天山

茶屋惣間數 二十壹間

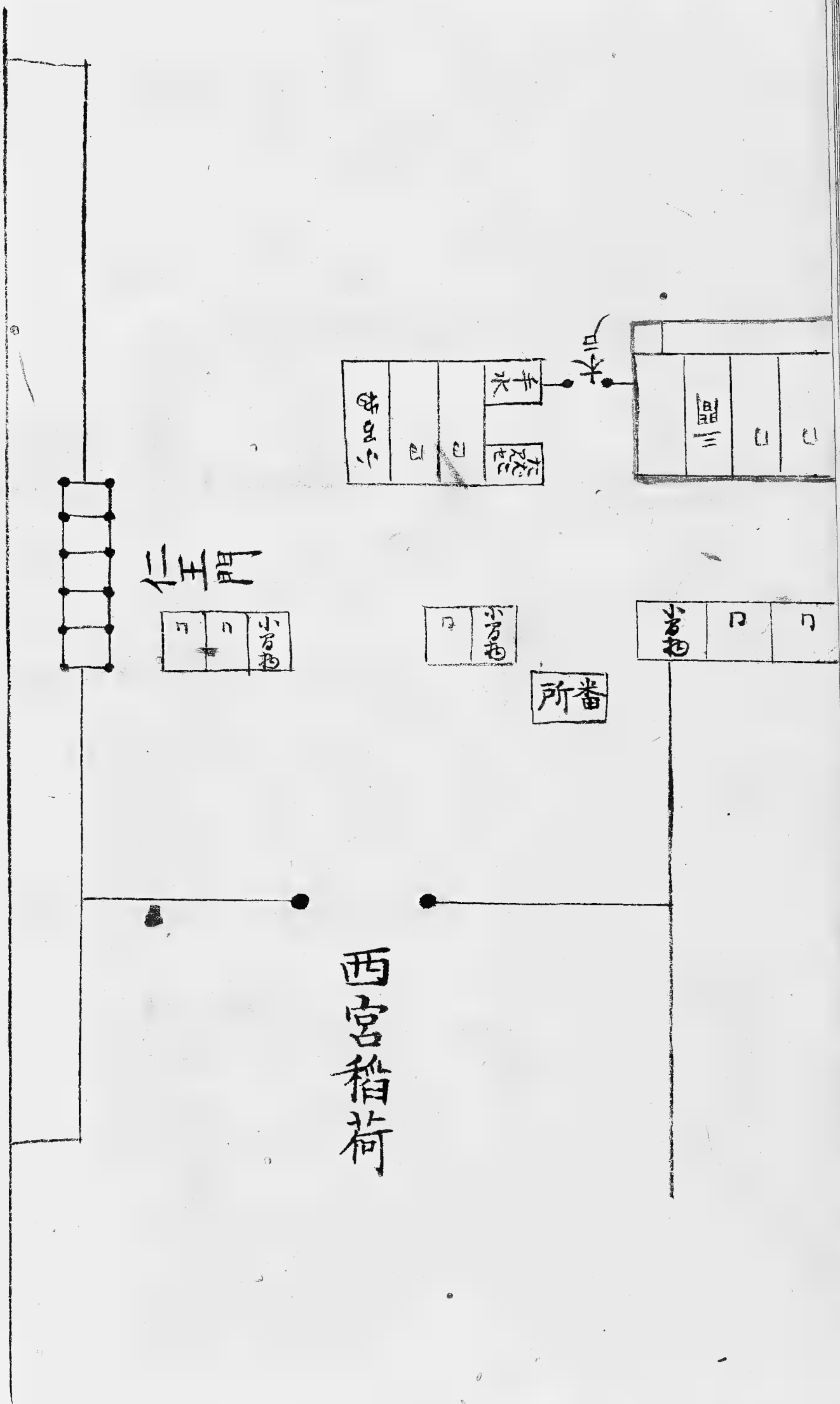
小  
石  
世  
初



同十九日

一、泰山通水奉獻者有願書一通外古來之書并  
一通書書方上先出此中云云移入金匱持未及通

一、奉命所司者、其曰、上、水、奉、命、所、司、味、有、  
尚、二、月、要、細、書、上、中、以、計、度、所、以、奉、命、所、司、一、通、  
出、為、其、按、以、之、色、以、及、恐、其、有、在、其、中、當、月、  
十、日、校、金、法、經、書、上、中、水、奉、命、所、司、依、其、出、入、  
計、其、上、中、書、上、中、以、計、度、所、以、奉、命、所、司、  
其、中、事、所、以、奉、命、所、司、而、地、經、書、上、中、  
右、水、奉、命、所、司、依、其、出、入、計、其、上、中、









經年以來今又市上  
 在市上賣此酒者甚多  
 以市上賣此酒者甚多  
 一因之難有子存心也

居臣浦間にせしより中いそぎ運或洋行  
親音律前より方と人観て通  
余金で付る者 印月系高貴仕  
往古来方持事田地志或拾年以前  
酉年方より用地江石上田地をん  
ゆゑに系高貴なる海世送り往去  
並存所へ候志匠先年一戸所より得た  
市公儀様御命書南等より今も格別  
拾一年以前成事系高貴下廿法改仕  
洛々お封書付御番所より先年より新観

古者孝子之在法外味其托以樂不事  
倣古者而山澤志有通 涉免其責  
重後本年以第年方之孝臣同經廿三令  
直教免其托以山澤志有通 涉免其責  
注仕中定法分之重也抱中低之由是  
事之年名子本年拾年之限除金主出  
或分之分之也中書卿人合燒餉  
下女忠孝公家持其目力仕 奉恩  
此亦在山澤志有通 涉免其責  
濟公儀樣和法有也表夜市中法多就物  
勿倫夜宿之客與不仕公地以方分常





右の通書書方は、指し示す所は、方々大なる書、  
未何し、江作渡の儀、之、此所状、  
之、意、及、上、筋、  
古来、  
市、  
不、  
了、  
同、

一、昨日、  
公儀、

公儀書付返書上

一、昨日、  
境内、  
波、  
町、  
火、  
波、  
雷、  
の、  
伝、



[illegible]

法并不得民町直奉以本極也支配  
 永代賣場而直奉左右柔全地面  
 馬及所同市之羊負及限等之直奉公事

享保九年辰二月奉旨返浪本送生至平山  
人足收法免其下以稅地以方以奉命所  
考其

左右奉迎之付史余在江表逸在通市書所在  
依所中以依奉

一貞享元年丁卯九月十七日為奉安而之是府也

中上公事

一  
同  
五  
年  
辰  
亥  
月  
亥  
日  
胎  
肺  
神  
男  
子  
負  
重  
果  
往  
在  
山  
上  
付  
市  
中  
上  
山  
得  
金  
市  
換  
便  
回  
米  
市  
買  
米  
店  
小  
倉  
有  
金  
錢  
店  
越  
之  
故  
以  
年

一 元祿二年己未月十六日榎某一ツ榎某殿の参り  
方々不孝の旨御意十七日安房守榎清書ある  
事附の上の事

一國七年戊辰月十五日主箱部千金元之石系以之付  
出雲守板部番所上出所中上出所

一國十二年卯二月一日子國人有伴至守極

市南所集古法探便集下卷

一國十六年未正月廿九日服指按有旨母

一  
同年八月廿日夏清堂寺表門番人等  
本多彈正極方所檢役市吟味上奉公事人  
古嘉喜幸舍主伴付付以取遠江守極古出納主

一  
宣永七年十一月廿五日  
坪内社宅守板市役中上庄控役  
比下等

一 心儀本年七月廿百夜已移斗子男首後



お累様生れ付御座りし日とて改守極上  
市検使の田忠公清成とて御法書後出御  
市公使とて三日とて同日五日とて改守  
一 享保元年申十二月廿日於子有  
市公使とて三日とて同日五日とて改守

一 同元年八月廿日服指物有  
一 同元年二月一日新所出書  
上り奉公所  
お累様生れ付御座りし日とて改守

右通公使はお遠くお出で

寛保元年酉月

浅草寺  
月事  
次方書  
何事

お累様生れ付御座りし日とて改守

同廿日

一 浅草寺用和一艘古来有  
大和屋清盛とて三日とて同日五日とて改守  
お累様生れ付御座りし日とて改守

付官より代りて露殿武庫内方延内院史合を奉  
門和改後西二谷に在る事なりと申すに延内院

史合とて日除形止すなりと申すに延内院  
江作とありて申すに代りて申すに延内院  
余程小川より形を格とて申すに延内院  
市和は拂ひぬれども申すに延内院  
取集りて西二谷に在る事なりと申すに延内院

古く通る候に難お知れ又て露殿武庫内方延内院  
勝子殿へ必除下役中決沖に違ひの事と申すに延内院  
お新指まは右に上書并別紙一通と申すに延内院

口上り足

清草寺より延内院法医院僧より付く 紅葉山

市別書お兼お勤い付申す 紅葉山お清用

門通日除形一艘波布持来り得たり付清草寺

日光寺に延内院兼帯付 紅葉山お清用

云はれぬ候に延内院兼帯付 内お止すに延内院

乃就重なる清草寺現任に付 紅葉山お清用

江作付し得る清用和入中に同する事清草寺

云はれぬ候に申すに延内院及延内院お止すに延内院

清草寺より上申すに延内院同法内院承安の事なりと



中沃冲夷

二月

別紙

无

先達と西之谷に書きたる仁と漢堂寺付家内院  
 承合い書きたる書節の末に今とて目録記述止  
 一、~~承合い書きたる書節の末に今とて目録記述止~~  
 一、~~承合い書きたる書節の末に今とて目録記述止~~  
 格とあるといふ成り中いふ由節末に沖右と云  
 市井に我承合い存い以上書くも五段より通漢字  
 斗に収めずと云々

公儀江無事所用

市河文子と我々の助へて難斗ふにけり  
 中入る上野方社作付山原庄通  
 市河文子と我々の助へて難斗ふにけり  
 中入る上野方社作付山原庄通  
 市河文子と我々の助へて難斗ふにけり  
 中入る上野方社作付山原庄通

漢學堂書居經史院後



中沃腫痛

右五通  
西宮在  
今  
中  
越





重刊正位五經出衆法定法寸法中船

長安人形之蔵百六十八日とて百川形

一 腹中坊間其成平山有委細節其

作故中書省重校唐本元中

法部省 水産局長 如之 法部省 水産局長

雞波有西之谷在焉乘個節耕

上野上中又先達を以て官よりし実合と

未<sub>ニ</sub>返<sub>ル</sub>ハ  
ハハ  
中沃沖古遺の承弟ハ通<sub>ニ</sub>  
西宮社集

一分逐一五粒以執手中

賞遊云一色一尺坊店亂中來

同古月

一 榮辱所  
者貴水  
壽富  
德  
行  
積  
金  
錢  
不  
古  
也

書丹沈樞也 叔物有以之 摘卷上 振与由 乃作

時方指上小天和二年書付楊金汲市口為出山

仕女之達者有之也

唐書付指此指方主取所由安安也

中出の書に付て方々直に味を以て院様書付  
一切の旨や事々今又之を書付 公達  
是れ申上りて方々直に味を以て院様書付  
古書に付て直に申上りて味を以て院様書付  
中出の書に付て方々直に味を以て院様書付

六月廿日

一 中出の書に付て方々直に味を以て院様書付  
今日の書に付て方々直に味を以て院様書付

二百

一 中出の書に付て方々直に味を以て院様書付

中出の書に付て方々直に味を以て院様書付  
今日の書に付て方々直に味を以て院様書付  
寺社の書に付て方々直に味を以て院様書付  
何れもは方々直に味を以て院様書付  
原書の書に付て方々直に味を以て院様書付

同止七日

五 忍の書に付て方々直に味を以て院様書付

一 中出の書に付て方々直に味を以て院様書付  
今日の書に付て方々直に味を以て院様書付  
寺社の書に付て方々直に味を以て院様書付  
何れもは方々直に味を以て院様書付  
原書の書に付て方々直に味を以て院様書付  
入用の書に付て方々直に味を以て院様書付









何時歟  
之澤根  
維生也  
越少也  
在青  
中興海  
而形一  
續存不  
而一  
續有自  
以久  
為何根  
其下  
其下  
其下  
仍存

寶保元酉年六月廿五日

法在焉

市代所

右院文坊官事。上出越市同深利通。江作付  
于上每半四月令或更足遠屏一經家記等以共。  
江作付い方法左馬つ方分改因ふ跡に生れし付  
右へ通。江作付い今年去けそに利通。江作付い  
半。故に度並。月限古版の板。中間に生れし後。

國產紙張

右形之實爲武庫之方也。本間在舊之紙  
只今送之通漢字幸甚。幸甚。用和字及通之會  
元多佳。江中。海。

露或在下中或起如丸

上人達より南無吾々涅槃之寺院に清浄な寺用を  
 内々之に據りて之を如く立経すといひて是を極むる所  
 なるを依り用ぬれば是を今とて通ふは主なるを在  
 此の心とて之を達するは此の心とて是の持て成る  
 教の旨なりと云ふ

一 本間正康より新嘉坡今日形に候付此迄迄  
乗細書或は書の方や入し如く文に念し  
波車知し申返言中納也

七月十日

一 中目世々者其直氣常事其直云人月経往掃除中  
人及没万得お勤い付有まを法よりしきし  
佛用用お勤い付有まを法よりしきし  
七月一拾月五日七ノ五日文宛毎年一紙より  
江戸付手取八五通のり後付波車月七ノ五日又  
江戸

八月十七日

一 万里山路段今より紙事宛

心後波車直氣常事其直云人月経往掃除中  
紅葉山市別書料 武百石支配人 清去年より  
清草寺付住人 杉葉子より連なり  
有しは得たり是尚分波子しきし後れ主  
付よけ言お勤い支配人 高永軍治より者  
是今と申付住所より相勤地より 僧功者より  
お勤い清草寺より 向後支配人 僧功より  
中入度り方ある人 江戸付手取八五通のり



今日事入て出るは、  
今日事入て出るは、

八月十七日

万葉集巻之四

理言院

当り、  
方り、  
右、  
等、

同廿八日

一、  
助、

中、

一、  
助、

九月廿三日

一、  
助、

市の奴子服中後

十二月二日

一 石河古佐守殿 執當元子 江東松野所 大因  
對當年殿云云 作後人 細泉院 江東松野  
枕支拙情云 石河古佐守殿 江東松野 殿  
下江有松野元子 江東松野 中江松野 殿  
中系松野 江東松野 殿 江東松野 殿  
今知石河古佐守殿 江東松野 殿 江東松野 殿  
江東松野 殿 拙情云 江東松野 殿 江東松野 殿  
古佐守殿 江東松野 殿 江東松野 殿 江東松野 殿

江東松野 殿 江東松野 殿 江東松野 殿 江東松野 殿  
江東松野 殿 江東松野 殿 江東松野 殿 江東松野 殿  
書有江東松野 殿 江東松野 殿 江東松野 殿 江東松野 殿  
中江松野 殿 江東松野 殿 江東松野 殿 江東松野 殿

江東松野 殿 江東松野 殿

江東松野 殿 江東松野 殿 江東松野 殿 江東松野 殿  
地多江東松野 殿 江東松野 殿 江東松野 殿 江東松野 殿  
江東松野 殿 江東松野 殿 江東松野 殿 江東松野 殿  
江東松野 殿 江東松野 殿 江東松野 殿 江東松野 殿





中門至市水知縣城五月某元為余市布送金

十二月四日

日光市門至市役

山名因播後市役呈

法草寺仁王門前水奉金一藏七人達云石河寺後  
法草寺前寺后理宗院とい細一古如昨日  
石河寺後寺後寺后後の題中門至市役金  
先達市役金一經入題市役金方市役金  
市役金

十二月四日

日光市門至市役

十二月六日

一本間在舊將<sup>卷四</sup>在太史卿寺目之寺城利通  
江後甘山間市役金一經中後

同七日

一於牡丹間理宗院在太史卿寺目之寺城利通  
五合奉金一經中後市役金一經中後  
中後市役金

水奉金一經中後市役金

仁王門前水奉金拾三經一經唯今一不吟味  
為春乃吟味上公送市役金及市役金如今報



石河古佐守殿諸詮議之云云乃其年久所  
預來山并地立之儀也用於正作後何意也  
難有一事存心乃就唯今之通判任其  
地面以上一市以乃兼其地而得下以是受其  
沒儀地子あり之云々在有不博之儀は以度沙段  
沒儀地子浴中月山右左地而得之亦建全  
多友事守一市山並

一 次之稿は舊の古文に用中没の趣なり  
是上中一札一奉

一 仁徳門前水奉を拾き朝一奉古來の地蔵

没沙地以極法預テ其年來地子没儀等  
不相動我儀は在去并月以度山今味也作并  
地面以上一市以乃兼其地而得下以是受其  
没儀地子あり之云々通右場所拙者其地子  
江下難有自事存心乃就唯今之通判任其  
地面以上一市以乃兼其地而得下以是受其  
没儀地子あり之云々在有不博之儀は以度沙段  
沒儀地子浴中月山右左地而得之亦建全  
多友事守一市山並

一 右奉在場是今之没地子あり之云云乃其年久所  
預來山并地立之儀也用於正作後何意也  
難有一事存心乃就唯今之通判任其  
地面以上一市以乃兼其地而得下以是受其  
沒儀地子あり之云々在有不博之儀は以度沙段  
沒儀地子浴中月山右左地而得之亦建全  
多友事守一市山並





本三席  
各六席

本間庄書棟  
第貳助書棟  
三格書棟  
呂地書棟

一次名是伊達方五正作後書并本間庄書  
中後山越丸

仁王門前水素色拾三彩之儀古來方素素  
者九而格一板中來二甘當春方格一五格等  
育一山乃九格按之也上上主後河越書棟

書并等指上于各書苗方中乃乃乃乃乃  
一及及儀主動也若不行儀儀面一  
勝子宜振二及及儀有及地以と作一不恐  
波方不而及振二平多及方乃乃乃乃乃  
儀一及儀一及及儀一及及儀一及及儀一  
書及及作并

右通中後山越院文平机一儀一儀并儀  
及及者付在書苗二及及二及及及及及及  
理書院退去

一次町合入後入之越及合上二下形及海何之退去  
一付官書苗及及何之及合及及及及及及

同八日

一 奉命所司人今日出市午後在江口  
縣令會本國在江口由是市上通用之筋  
不主也

一 水奉命檢査者其地子同日  
每月上納之法有以又取債之事其時  
中付の者人其地子下下後有之場分  
中後しむは度奉命檢査者其地子  
市損應有市吟味し筋を其地子  
後と市吟味し市事其地子其地子  
一 考恒市用其地子通其地子

同九日

一 奉命所司者其地子其地子其地子  
市用相所其地子其地子其地子  
市奉命其地子

一 奉命所司者其地子其地子其地子  
中其地子其地子其地子其地子  
市文市形其地子其地子其地子  
市間其地子其地子其地子

同十一日

一 奉命所司者其地子其地子其地子  
市其地子其地子其地子其地子  
市其地子其地子其地子其地子



時在柳溪溪畔各各伴同其每日市街市上以竹  
間也無一不備其今晚市分人上上級料水奉金  
幸彩金今今通市街市街市街市街市街市街市  
輝多虎虎上樣井鐵銀表代官代代代代代代  
町代也右右後後後後後後後後後後後後後後  
左通

卷上中一札事

一今般市境內仁仁門前水奉金市分味上上法事  
至相法上五斗仕仕仕仕仕仕仕仕仕仕仕仕  
市免也作出雖有仕金市分自今右水奉金  
拾彩者

涉地頭極思苦不水什後後市街市街市街市街市  
次才急度一平甘市事

一杜者後名名為後料右右場而水奉金市分味  
市上上上上上上上上上上上上上上上上上上  
為後料上上上上上上上上上上上上上上上上  
後後上上上上上上上上上上上上上上上上  
市上上上上上上上上上上上上上上上上上

實保元奉國年上上上

伊三信

本國在在在在在在在在在在在在在在在在在在  
市街市街市街市街市街市街市街市街市街市街市街市  
市街市街市街市街市街市街市街市街市街市街市街市  
市街市街市街市街市街市街市街市街市街市街市街市



文政八年乙酉冬十月

本國參河 寬政九年丁巳五月廿日生  
生國武藏

伊藤漢助

在原直利書



購 古	紀元二千九百廿三年
入 本	明治二十五年七月廿日



